

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 子どもの健康と安全 ナンバリング：2314	保育士資格取得のための 必修科目	単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：竹内麻貴 担当形態：単独
系列	保育の内容・方法に関する科目		
教科目	子どもの健康と安全		
授業の到達目標及びテーマ 1. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について理解でき、応急処置の演習が行える。 2. 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について理解でき、具体的に説明できる。 3. 子どもの健康や安全の管理に関わる組織的な取組や保健活動の計画・評価について理解できる。			
授業の概要 保健的な観点に基づく環境整備や心身の健康・安全管理の実施体制など、実践的な力を習得する科目である。アレルギー対応、感染症対策、事故防止、事故発生時の対応などについて、関連するガイドラインや近年のデータに基づいて具体的に理解していく。子どもの健康や安全の管理に関わる、組織的な取組や保健活動の計画・評価等についても理解する。 応急処置演習も行い、実践的な技術を獲得する。			
授業計画 第1回：保育的視点を踏まえた保育環境及び援助 第2回：子どもに関する個別対応と集団全体の健康及び安全管理 第3回：保育における健康及び安全の管理・衛生管理 第4回：事故防止及び安全管理・危機管理・災害対策① 第5回：事故防止及び安全管理・危機管理・災害対策② 第6回：子どもの体調不良等に対する適切な対応と応急処置 第7回：子どもの障害が発生した場合の適切な対応と応急処置 第8回：救急処置及び救急蘇生法① 第9回：救急処置及び救急蘇生法② 第10回：救急処置及び救急蘇生法③ 第11回：救急処置及び救急蘇生法④ 第12回：感染症対策 発症時と罹患後の対応 集団発生の予防 第13回：健康及び安全管理の実施体勢 第14回：職員間の連携と協働、組織的取組 第15回：母子保健、地域保健、専門機関、自治体等との連携 定期試験：筆記試験		授業時間外の学習 予習は、あらかじめ教科書を読んでおく。また実習や身近に乳幼児がいる場合は授業で学んだことを確認・実践しておく。 復習は、ポイントをまとめ、演習でうまく出来なかった内容を人形などで再度行うなど振り返っておく。乳幼児に関する保健や安全に関する報道に意識的に把握して考える習慣を身に付ける。課題は提出期限をまもる。 標準学修時間の目安： 演習手順や講義内容の予習、復習、宿題を含めて60～120分程度の時間が必要である。	
授業の方法 講義PBL（課題解決型学習）・実技演習・ディスカッション・グループワークを行う。成績評価に関係する重要な提出物は一人一人にコメントを入れ手渡しで返却する。学生の疑問・質問にはリアクションペーパーも活用し個人または全員にフィードバックしてゆく。			
テキスト 新基本保育シリーズ『子どもの健康と安全』 児童育成協会 監修 中央法規			
参考書・参考資料等 『子どもの保健と安全』 高内正子編著 教育情報出版 『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』内閣府・文部科学省 適宜、参考資料を配布、紹介する。			
学生に対する評価 ：定期試験（60%） 課題提出（20%） 演習・授業参画度（20%） ルーブリック評価も活用し総合評価する。			
履修上の注意 ：講義・演習ともに積極的、主体的な姿勢で取り組むことが大切。危機管理などは予測・推測が重要になるので多角的に考える姿勢が必要である。授業中のスマホ操作、写真・動画撮影、通信操作、音楽を聴きながらの受講は禁止とする。特に演習時にはふざけないで行う。			
実務経験の有無	有	実務経験	国立医療センター（産婦人科、外科）、小児科クリニック 保育園引率看護師、母子支援NPO活動
実務経験を生かした教育内容 ：看護師、母子支援活動、および自分の育児体験を活かし、現場で活かせる知識、技術を習得できるよう、わかりやすい授業を行う。			